

ちちおや むすこ
父親と息子とロバ

むかしむかし むら まいしゅうもくようび いちば い ちちおや むすこ
昔々ある村に、毎週木曜日、市場に行く父親と息子がいました。
いちば かれ いえ はな おお むら ふたり
市場は、彼らの家から10キロ離れたもっと大きな村にあり、二人はい
つもロバに乗って行っていました。

もくようび あさ とお おやこ はや しゅっぱつ むら ひろば とお
ある木曜日の朝、いつもの通り親子は早くに出発し、村の広場を通り
ました。父親は前で端綱を引き、息子は後ろでロバに乗っていました。
ひろば むら じゅうみん おおこ とお
広場には村の住民たちがいました。そして、親子が通っていくのを見て、
おお こえ い
大きな声で言いました。

むしんけい むすこ ちちおや ある むすこ すず お
「なんて無神経な息子なんだい。父親が歩いていて、息子は涼しい顔
だよ。なんてしつげが悪いんだい。」

むすこ むらびと い き は
息子は、村人たちがこんなことを聞いて恥ずかしくなりました。
お ちちおや の かれ はづな ひ
ロバから降りて、父親をロバに乗せ、彼は端綱を引きました。こうして、
むら でぐち すす う
村の出口まで進んでいきました。そこには、ジャガイモを植えている
のうふ かれ ちちおや の まえ むすこ はづな
農夫たちがいました。彼らは、父親がロバに乗り、その前で息子が端綱
ひ み おおこえ さけ
を引いているのを見ると、大声で叫びました。

ちちおや じぶん しず
「なんてわがままな父親だい。自分は静かにロバにまたがって、かわ
いそうな息子は歩いている。なんて厚かましいんだ。」

おやこ こえ き ふたり の けっしん みち さき すす
親子はその声を聞いて、二人でロバに乗る決心をし、道を先に進みま
した。道の半分まで来ると、いつもわずかな休憩をとるために立ち止ま
る噴水がありました。そこには数人の女性たちがいて、親子がロバに乗
つてやってくるのを見て言いました。

おも た
「かわいそうなロバ。あんなに重たいものに耐えなければいけないの
よ。どれほど弱いものいじめするのかしら、あの親子は。」

ちちおや むすこ たが かお み あ
父親と息子はそれを聞くと、お互いに顔を見合わせて、ロバを疲れさ

せないように、あとの道のりを歩いて進むことに決めました。まだ、
相当な距離がありました。やがて親子は、かなり歩いたために少し疲れて、汗をかきながら村に到着しました。

村の入口にはひなたぼっこをしながらベンチに座っている老人たちが
いました。そして、親子をみると笑いながらお互いに言い合いました。

「なんて愚かなんだ。ロバをつれているのに二人は歩いていくぞ。こんなことは見たこともないよ。」

ついには、親子は、市場で必要なものを買って家へと帰りました。

あなたは、二人がどのように帰ったか想像できますか？

pdfelement